自分の死亡記事を考えよう。 And Live With Vitality (1)

「どのような生き方をしたとしても、人生は、最後には、死をもって終わる」という人生の厳粛さ。死を通して、生をしっかりと考えましょう。そのことが人生を深く見つめ、より良き人生を創造させるためには、必要なことです。

課題1. さて、皆さんは、大手の新聞社の死亡記事の担当者であり、突然自分の死亡記事を書くように頼まれたと想像しなさい。なんと書くだろうか。いうまでもなく、できるだけ客観的に書くように努めてほしい。

まず、次に簡単な例を示しましょう。下線部を書き込んで、練習しましょう。

日本花子、..... 歳、..... のために、本日亡くなった。

日本花子の遺族には、..... がいる。

日本花子が死んだとき、特にがんばっていたことは..... であった。

日本花子は、..... で誉めたたえられるだろう。

日本花子は、..... の理由から、
..... によって思い出されるだろう。

日本花子は、..... の領域で貢献した。

日本花子は、いつも..... を希望していた。

埋葬は、..... だろう。

花が、..... によって贈られるかもしれない。

課題2. まず、今日死ぬとしたら、新聞で書かれると思われるあなたの死亡記事を書きなさい。

(※上記の例のとおりにならなくても良いです。別紙の記入欄を使用する)

課題3. 次に、5年後に死ぬとしたら、新聞に書いてもらいたいと思うあなたの死亡記事を書きなさい。

(※上記の例のとおりにならなくても良いです。別紙の記入欄を使用する)

注意)精神的にしんどければ、課題2,3は、しなくてもいいです。

課題4. それらを比べなさい。あとたったの5年間生きるとするなら、あなたはどのようなことができるだろうかを考えながら、別紙の課題4をやってください。

.....
年 組 番 名前(.....)

自分の死亡記事を考えよう。 And Live With Vitality (2)

課題2. 「今日の死亡記事」記入欄 (年 月 日)

課題3. 「5年後の死亡記事」記入欄 (年 月 日)

課題4. 以上の課題を学習して、君自身どんな事を学びましたか。下線部に書き込んでね。

- ①私は、「自分が.....である」ことを学びました。
- ②私は、「自分が.....である」ことで驚きました。
- ③私は、.....を思いだしました。
- ④私は、.....を信じるのが難しいことを知りました。
- ⑤私は、「自分が.....である」ということで悲しくなりました。
- ⑥私は、.....を楽しみました。
- ⑦私は、.....を知りませんでした。
- ⑧私は、.....を変えるつもりです。

**皆さんは、自分の人生に責任がある。 安らかに眠りなさい。(Rest In Peace)
 そのためには、まずは、バイタリティを持って生きていってほしい。(Live With Vitality)**

この学習をしての感想を書いてください。 _____

年 組 番 名前 ()